

令和4年度

教職課程

自己点検評価報告書

就実大学

令和5年3月

就実大学 教職課程認定学部・学科一覧

- ・人文科学部（表現文化学科，実践英語学科，総合歴史学科）
- ・教育学部（初等教育学科，教育心理学科）
- ・大学院（人文科学研究科，教育学研究科）

大学としての全体評価

就実大学の教職課程は，人文科学部（表現文化学科，実践英語学科，総合歴史学科）と教育学部（初等教育学科，教育心理学科）の2部5学科があり，大学院は，人文科学研究科と教育学研究科の2研究科から構成されている。

このうち教員免許の取得に関しては，人文科学部においては，表現文化学科に中学校教諭一種免許状（国語）及び高等学校教諭一種免許状（国語），実践英語学科に中学校教諭一種免許状（外国語/英語）及び高等学校教諭一種免許状（外国語/英語），総合歴史学科に中学校教諭一種免許状（社会）及び高等学校教諭一種免許状（地理歴史）の課程が設置されている。

教育学部においては，初等教育学科に幼稚園教諭一種免許状，小学校教諭一種免許状，特別支援教諭一種免許状（知的障害者，肢体不自由者又は病弱者〔身体虚弱者を含む。〕）の課程が設置され，教育心理学科には，養護教諭一種免許状の課程が設置されている。

人文科学研究科では，中学校教諭専修免許状（国語，外国語/英語，社会）及び高等学校教諭専修免許状（国語，外国語/英語，地理歴史）を取得することができ，教育学研究科では，幼稚園教諭専修免許状，小学校教諭専修免許状，特別支援学校教諭専修免許状，養護教諭専修免許状を取得することができる。

本学における教員養成は，カリキュラムに関しては教務委員会が，教育実習や介護等体験等，具体的な指導については，保育・教職課程委員会が組織され，各学科・専攻より委員が選出されている。また，前者については教務部教務課，後者については保育・教職支援部保育・教職支援課の職員が事務に当たり，双方で連携，協働しながら教員養成の支援にあたっている。

以上により，本学では適切に教職課程が運営されていると評価できる。

初等教職課程と中等教職課程が学部で分かれていることから，以下，学部，大学院ごとに本報告書をまとめることとする。

就実大学

保育・教職課程委員長 門原 眞佐子

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	3
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	3
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	7
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	11
III	総合評価	14
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	15
V	現況基礎データ一覧	16

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

(1) 大学名：就実大学

(2) 学部名：人文科学部 教育学部

(3) 所在地：岡山県岡山市中区西川原一丁目6番1号

(4) 学生数及び教員数

(令和4年5月1日現在)

学生数： 人文科学部 教職課程履修 127名／学部全体 966名

教育学部 教職課程履修 465名／学部全体 598名

教員数： 人文科学部 教職課程科目担当（教職・教科とも）51名／学部全体 94名

教育学部 教職課程科目担当（教職・教科とも）55名／学部全体 93名

(5) 大学名：就実大学 大学院

(6) 研究科名：人文科学研究科 教育学研究科

(7) 所在地：岡山県岡山市中区西川原一丁目6番1号

(8) 学生数及び教員数

(令和4年5月1日現在)

学生数： 人文科学研究科 教職課程履修 0名／研究科全体 5名

教育学研究科 教職課程履修 1名／研究科全体 9名

教員数： 人文科学研究科 教職課程科目担当（教職・教科とも）21名
／研究科全体 31名（学部兼務：28名）

教育学研究科 教職課程科目担当（教職・教科とも）28名
／研究科全体 39名（学部兼務：30名）

2 特色

本学の建学の精神である「去華就実」（外見の華やかさに心奪われるのではなく、内面の豊かさや知性，社会に貢献できる実践的な能力などを身につけること）の下，以下の目的をもって，教育者を育成している。

人文科学部では，現代の社会及び文化の発展に寄与するため，表現文化・実践英語・総合歴史の三学科における専門教育の内容を踏まえ，幅広い教養と専門的知識を教授している。その上で，豊かな人間性と主体的な行動力を獲得させることに専門性と実践力が発揮できる教員を育成することを目的としている。

教育学部では，現代における教育の諸問題の解決と健全な社会の発展に寄与するため，教育実践，健康，人間関係形成に関する専門的知識・技能を教授するとともに誠実で豊かな人間性を育て，受容し，教え，支え，ケアすることに専門性と実践力を発揮できる教育者を育成することを目的としている。

人文科学研究科では，高度な専門的知識と職業的能力により社会及び文化の発展に寄与するため，日本語学・日本文学，英語学・英米文学，歴史学の三領域における専攻分野の研究において教養を深めるとともに，高度な専門的知識を教授している。その上で，豊かな人間性と主体的な行動力を涵養することのできる高度な専門性と実践力を発揮できる教員を育成することを目的としている。

教育学研究科では，現代の教育をめぐる諸問題に高い見識と実践力をもって，教育実践や教育支援を担う人材の育成を目標としている。そのため，教育内容や指導方法，教育支援に関する深い専門的知識を教授するとともに，教育現場に対する多面的・体験的な理解に基づいて理論と実践を統合し，学校や地域の教育課題に的確に対応できる専門性と実践力を発揮できる教育者を育成することを目的としている。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状説明〕

人文科学部・教育学部においては、ディプロマ・ポリシー（DP）及びカリキュラム・ポリシー（CP）を踏まえて教職課程教育の目的を設定し、人文科学研究科・教育学研究科においては、これを踏まえた専修免許状等の取得について、履修方法とともに履修要覧において学生に周知している（資料 1-1-1, 1-1-2, 1-1-3, 1-1-4）。育成を目指す教師像については、教育学部・教育学研究科の DP において具体的に設定・周知されているが（資料 1-1-5, 1-1-6）、人文科学部・人文科学研究科における具体像については検討中であり、大学 HP への公開を準備中である（資料 1-1-7）。教職課程における教育に対して責任を持ち調整を行う組織として、教務課とならび保育・教職支援課及び保育・教職課程委員会を置き、関係教職員が目的・目標を共有し、計画的に教育を実施している（資料 1-1-8, 1-1-9）。教職課程における学修成果については、「教職履修カルテ」を学生に配布し、年次ごとに振り返りと目標設定の機会を設けて可視化している（資料 1-1-10）。

〔長所・特色〕

保育・教職支援課を置き、また学部・大学院単位ではなく、学科・研究科ごとに保育・教職課程委員を置いている（資料 1-1-8, 1-1-9）。

〔取り組み上の課題〕

人文科学部及び人文科学研究科において、具体的な「育成を目指す教師像」を検討中である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1-1-1：人文科学部 履修要覧「教職課程」93—104 頁

<https://www.shujitsu.ac.jp/assets/files/about/torikumi/kouhyo/file10/file03.pdf>

- ・資料 1-1-2 : 教育学部 履修要覧「教職課程」111-125 頁

<https://www.shujitsu.ac.jp/assets/files/about/torikumi/kouhyo/file10/file04.pdf>

- ・資料 1-1-3 : 人文科学研究科 履修要覧「教職課程」171-173 頁

<https://www.shujitsu.ac.jp/assets/files/about/torikumi/kouhyo/file10/file01.pdf>

- ・資料 1-1-4 : 教育学研究科 履修要覧「教職課程」217-221 頁

<https://www.shujitsu.ac.jp/assets/files/about/torikumi/kouhyo/file10/file02.pdf>

- ・資料 1-1-5 : 教育学部 3 ポリシー

<https://www.shujitsu.ac.jp/department/kyouiku/policy/>

- ・資料 1-1-6 : 教育学研究科 3 ポリシー

<https://www.shujitsu.ac.jp/daigakuin/kyoiku/policy/>

- ・資料 1-1-7 : 大学 HP 教職課程に関する情報公開

<https://www.shujitsu.ac.jp/about/torikumi/kouhyo/>

- ・資料 1-1-8 : 学校法人就実学園事務組織図

<https://www.shujitsu.ac.jp/assets/files/about/gakuen/about/file3.pdf>

- ・資料 1-1-9 : 保育・教職課程委員会規程

- ・資料 1-1-10 : 教職履修カルテ・サンプル

基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状説明〕

人文科学部においては中学校教諭一種免許状（国語・外国語（英語）・社会）・高等学校教諭一種免許状（国語・外国語（英語）・地理歴史），教育学部においては幼稚園教諭一種

免許状・小学校教諭一種免許状・特別支援教諭一種免許状・養護教諭一種免許状の取得にむけて「教科及び教職に関する科目」を定め、そのうち「教科及び教科の指導法に関する科目」については、学科の教員（非常勤を含む）を配置し、「大学が独自に設定する科目」については、教養科目担当教員を配置している（資料 1-1-1, 1-1-2）。教職課程の運営体制については、学科・研究科ごとに 1 名以上の保育・教職課程委員を置き、保育・教職支援課及び教務課との協働体制を構築している（資料 1-1-8, 1-1-9）。専修免許状の取得を目指す人文科学研究科及び教育学研究科においても、上記に準じた体制を構築している（資料 1-1-3, 1-1-4）。

教職課程に関する教育環境として、各教科の実習室を完備する他、通常授業を行う教室においては原則として ICT 環境（PC, インターネット環境, プロジェクタなど）を備え、学生の模擬授業などにおいても利用が可能となっている（資料 1-2-1）。2022 年度においては「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」の導入に応じて「ICT 活用の理論と方法」（2 年次配当科目, 1 単位）を開設した（資料 1-1-1, 1-1-2）。また、全科目で e-Learning システム（Web Class）を利用しており、対面授業の補完やコロナ禍におけるオンライン授業のプラットフォームとしても活用されている（資料 1-2-2）。

全学的に、全ての授業に対し授業評価アンケートを実施しているが（資料 1-2-3）、教職課程に関わる科目を抽出した分析などはまだ実施していない。教職課程に特化した FD や SD については、教育学部初等教育学科における FD 研修会の実施にとどまっている（資料 1-2-4）。

情報公開については、大学 HP において「教職課程に関する情報公開」のページを設定し、適切に情報公開を行っている（資料 1-1-7）。

教職課程のカリキュラムについては、教育学部初等教育学科の HP において公開し、オープンキャンパスの学科説明においても取得できる免許やカリキュラムについて説明をしている（資料 1-2-5, 1-2-6）。また、教職課程のカリキュラムは履修要覧にも掲載しており、履修要覧は HP で公開している（資料 1-1-1～1-1-4）。

全学的な教職課程の自己点検については、2021 年度まで実施されておらず、2022 年度

(本年度) から実施を開始したところである。

〔長所・特色〕

養護実習に関しては、毎年実習生・実習校にそれぞれ実習後にアンケートを実施し、その内容を踏まえて、養護実習の運営方法や事前指導の内容の見直しと改善に活用している(資料 1-2-7)。

〔取り組み上の課題〕

全学的な教職課程の自己点検について、有効な方法を検討中である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・ 資料 1-2-1 : 教育用機器備付一覧

https://jmu.shujitsu.ac.jp/bihin/v_view.php

- ・ 資料 1-2-2 : Web Class サンプル

- ・ 資料 1-2-3 : 授業評価アンケートのお知らせ

- ・ 資料 1-2-4 : 初等教育学科 FD 研修会用資料「教職課程自己点検評価について」

- ・ 資料 1-2-5 : 初等教育学科 HP

<https://www.shujitsu.ac.jp/department/kyouiku/syotokyoiku/index.html#Curriculum>

- ・ 資料 1-2-6 : オープンキャンパス初等教育学科説明資料

- ・ 資料 1-2-7 : 養護実習のあり方に関する検討

基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状説明〕

本学で学ぶにふさわしい学生像については、各学部・大学院ともに、学部・研究科のアドミッション・ポリシー（AP）に「求める学生像」「入学者に求める知識・技能・能力・態度」、「入試方法についての方針」を設定し、募集要項及び学科HPに掲載して、オープンキャンパスや公開説明会において学科教員が説明を行っている（資料2-1-1）。教育学研究科の教育学系では、APに「幼児教育，初等教育，特別支援教育，養護教育等に関する教職資格をもち，専修免許状取得を目指す人」と明記し，教職課程で学ぶにふさわしい人材を募集している。学部・大学院のいずれにおいても，入学後オリエンテーションにおいて各教職課程の説明を実施している（資料2-1-2）。

教職課程履修の基準については，教育学部では教育の順次性を示して学生に理解させるための基準としてカリキュラムツリーを作成し，履修年次に対応して学生自身が点検できるようにしている（資料2-1-3，2-1-4）。履修者数については，初等教育学科・人文科学部・大学院教育学研究科ともに適切な履修者数である。教育心理学科では専任教員3名に対して養護教諭志望者が多い状況にある。人文科学研究科では現在，専修免許状の取得希望者がいない。学生の適性或資質に応じ，教育学部・大学院人文科学研究科では「教職履修カルテ」を作成し，学期ごとに担当者が点検，面談実施等，適切な教職指導を行っている（資料2-1-5）。

〔長所・特色〕

初等教育学科では，教職履修カルテ作成の際，担当教員の説明に加えて，4年生など上位学年の学生も指導に加わっており，充実したカルテの作成や新入生の意欲向上につながっている。また，上級生に下級生を指導させる機会を設けることによって，指導した学生にとっては新入生へ分かりやすく教える立場となり，互いに交流を深めることができている。

〔取り組み上の課題〕

特になし

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料 2-1-1 : 各学部・研究科アドミッションポリシー
<https://www.shujitsu.ac.jp/department/jinbunkagaku/policy/>
<https://www.shujitsu.ac.jp/daigakuin/jinbun/policy/>
<https://www.shujitsu.ac.jp/department/kyouiku/policy/>
<https://www.shujitsu.ac.jp/daigakuin/kyoiku/policy/>
- ・資料 2-1-2 : 各学部・研究科オリエンテーション, 教職課程ガイダンス資料
- ・資料 2-1-3 : 初等 履修要覧 2022 カリキュラムツリー 65, 69, 73, 77 頁
- ・資料 2-1-4 : 心理 履修要覧 2022 カリキュラムツリー 100-103 頁
<https://www.shujitsu.ac.jp/assets/files/students/file01/file02.pdf>
- ・資料 2-1-5 : 2022 年度各学科・研究科教職履修カルテ

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

〔現状説明〕

学生の適性や意欲については、各学部及び各研究科では学生の意欲や適性・単位取得状況について、学期末ごとに教職履修カルテを用いて確認している。また、配慮が必要な学生については、学科教員間で情報を共有し、全員あるいは希望者を対象として面談を実施し、学生の適性に応じた指導を行っている。学部・大学院のいずれにおいても、クラス担任、ゼミ担任が学生との面談を通じて、教育者としてのキャリアに関する意向を聞き取るとともにアドバイスを行ってキャリア支援につなげており、必要に応じて個別に複数回の面談を複数の教員が実施している。保育・教職支援課においても、教職履修学生に個別面談を実施している。

キャリア支援については、初等教育学科では保育・教職課程委員が、自治体の応募状況、採用試験の情報等を提供している。毎年4月には、「キャリア支援説明会」を行い、保育者

や教員を目指すために必要な情報を提供し、卒業生の現職教員による情報交換会や採用試験受験4年生による「採用試験報告会」も行っている（資料2-2-1, 2-2-2, 2-2-3）。また、初等教育学科・教育心理学科においては「教職研究Ⅰ・Ⅱ」を設け、学校現場における様々な問題の現状や取り組みについて学びながら、採用試験の問題分析や、筆記試験、集団討論、模擬授業など採用試験の各試験種別に応じた対策を行っている。これには、4年生が参加して後輩学生の応援をしている（資料2-2-3）。さらに、採用試験報告会を実施して後輩学生との交流を行い、採用試験問題の収集・提供、採用試験報告書の作成配布を行っている（資料2-2-5）。人文科学部・大学院では、保育・教職支援課において、各種情報を適切に提供している。

免許取得件数や教員就職率を高めるために、学部・大学院ともに、保育・教職支援課職員と連携して指導している。学内で模擬試験を低学年からの受験可能にすることや3年後期からの採用試験対策講座の受講など、筆記試験対策を重点的に行えるようにしている（資料2-2-6）。夏期休業中には各学科・研究科で教員採用試験二次試験対策（模擬授業、面接等）を実施している（資料2-2-7）。

初等教育学科・教育学研究科では卒業生による「採用試験直前激励会（小・特）」、「卒業生を囲む会（幼）」を実施し、卒業生との連携を図っている。また、卒業生の様子を「教職論」の授業で紹介し、4年次「保育・教職実践演習」では卒業生を講師として招聘している。さらに毎年、複数名の卒業生が、教員採用試験対策の指導も行っている（資料2-2-8, 2-2-9, 2-2-10, 2-2-11）。教育心理学科では小学校等に健康診断時や保健室でのボランティアとして学生を派遣し、若年性認知症患者とその家族との交流会に協力参加する等、幅広い観点から子供や家族支援に対する理解が深まるようにしている（資料2-2-12, 2-2-13）。人文科学部では教員に採用された4年次生をHPで紹介し、「表現文化学科教職課程の会」等によって教職への意識や意欲の向上を図る等、学科の教職課程学生の団結を図り、勉強会や模擬授業会等につなげている（資料2-2-14, 2-2-15）。

〔長所・特色〕

卒業生との連携協力については、卒業後もゼミを中心に連絡を取り合っており、大学の後輩への指導や情報共有などが活発になされている（資料2-2-8, 2-2-9, 2-2-15）。

〔取り組み上の課題〕

教育現場では、教職員の早期退職、転職が課題になっていることから、卒業後3年程度、個々の状況を把握するシステムを作り、卒業後の支援も行う必要がある。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料2-2-1：キャリア支援説明会（4年生）スライド
- ・資料2-2-2：初等幼保採用試験報告会実施要項
- ・資料2-2-3：初等小学校・特支採用試験報告会資料
- ・資料2-2-4：心理 web シラバス
- ・資料2-2-5：心理 教員採用試験受験報告書（令和3年度）
- ・資料2-2-6：各学部学科模擬試験 案内チラシ
- ・資料2-2-7：初等 人文 2022年度二次試験対策分担表
- ・資料2-2-8：初等教育学科 HP 採用試験直前激励会（小・特）
- ・資料2-2-9：初等 卒業生を囲む会（幼）報告書
- ・資料2-2-10：初等 教職論授業スライド
- ・資料2-2-11：保育・教職実践演習授業計画（小）
- ・資料2-2-12：ボランティア募集の案内（複数）
- ・資料2-2-13：はるそら広場チラシ
- ・資料2-2-14：人文科学部 HP 中学校社会科合格者
https://www.shujitsu.ac.jp/sogorekisi_site/news/detail/3345
- ・資料2-2-15：表現文化 教職課程の会チラシ

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明〕

教育学部・教育学研究科では、教育の基礎的理解に関する科目や、各免許課程における専門的事項及び「指導法の科目を多数設置している。一方、人文科学部・人文科学研究科では、教科に関する専門的事項の科目を多数設置することで、関連する分野の知識を幅広くかつ深く修得できるようにしている（資料1-1-1, 1-1-2, 1-1-3, 1-1-4）。両学部ともに「教職論」等の科目で教員育成指標等を参考に、教員のキャリアステージについて学修し、今日的な課題についての理解を深めるよう工夫している（資料3-1-1, 3-1-2）。ICT機器の活用については、両学部の教職課程で「ICT活用の理論と方法」が必修となっているほか（資料1-1-1, 1-1-2）、教科指導法科目等で実践的な指導を行っている（資料3-1-3, 3-1-4）。アクティブ・ラーニングについては、教職課程科目のみならず、各学科科目等でも広く実施されている（資料3-1-5, 3-1-6）。各科目の学修内容や評価方法等はシラバスで明確に示されている（資料3-1-7）。実習に当たっては、それぞれの教職課程で必要な履修要件を定め、適宜オリエンテーションを実施するとともに、事前事後の指導も実施している（資料1-1-1, 1-1-2, 3-1-8）。教職履修カルテを活用することで教職課程での学びを振り返らせるとともに、教育実習での自己課題の省察等を、教職実践演習での模擬授業（指導）や課題の改善等につながるように指導している（資料1-1-10）。

〔長所・特色〕

人文科学部・人文科学研究科では専門分野の強みを生かした、教職課程カリキュラムが編成されている。たとえば国語（中高）については、日本文学分野に古代・中世・近現代と時代ごとに専任教員を配置し、日本語学分野にも現代語・古典語のそれぞれに専任教員を配置して質の高い教科教育力の養成に努めているほか（資料3-1-9）、教職課程の学生を主な対象として「作品読解ゼミナール」を複数開講している（資料3-1-10）。

〔取り組み上の課題〕

ICT を活用した指導法の授業やアクティブ・ラーニングの手法については、教員が個々に実施している。それらについて、教職課程独自の FD 研修会を開き教員も互いに学びを深める必要がある。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料 1-1-1：人文科学部 履修要覧「教職課程」93-104 頁
- ・資料 1-1-2：教育学部 履修要覧「教職課程」111-125 頁
- ・資料 1-1-3：人文科学研究科 履修要覧「教職課程」171-173 頁
- ・資料 1-1-4：教育学研究科 履修要覧「教職課程」217-221 頁
- ・資料 3-1-1：「教職論（初等）」シラバス
- ・資料 3-1-2：「教職論（中等）」シラバス
- ・資料 3-1-3：「教科教育法（社会・地理歴史）Ⅱ」シラバス
- ・資料 3-1-4：「特別支援教育各論」シラバス
- ・資料 3-1-5：「総合歴史基礎ゼミナール」シラバス
- ・資料 3-1-6：「初年次教育Ⅱ」シラバス
- ・資料 3-1-7：学内ウェブシラバス様式
- ・資料 3-1-8：人文科学部教職課程ガイダンス
- ・資料 1-1-10：教職履修カルテ・サンプル
- ・資料 3-1-9：表現文化学科ガイダンス資料
- ・資料 3-1-10：「作品読解ゼミナール」シラバス

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状説明〕

教育学部・教育学研究科においては、指導法に関する科目を多く設け、また学校現場でのインターンシップ等の授業も設置し、体験前後の指導により、振り返りの機会を設けている（資料 3-2-1, 3-2-2, 3-2-3）。インターンシップは地域の学校園に依

頼しており、体験をきっかけにボランティア活動に入る学生も多く、地域の子供の実態を理解する機会となっている。人文科学部では、市内中学校の公開研究会への参加を令和4年度には2回呼びかけたほか（資料3-2-4）、英語（中高）、中学校社会及び「高校地歴では同一学園内の中学校への授業参観を行っている（資料3-2-5）。ただし、組織的な取り組みには至っていない。

また、保育・教職支援課が教育実習校との窓口として、緊密に連携を図っている。

〔長所・特色〕

教育学部・教育学研究科においては、地域の学校園での体験活動を充実させており、体験をきっかけに学校園や学童保育、地域の子育て支援活動でのボランティア活動を行う学生が多い。

〔取り組み上の課題〕

人文科学部・人文科学研究科で、実践的指導力の養成のための組織的な取り組みが必要である。人文科学研究科では、教科教育法の研究に特化した修士論文作成のためのカリキュラムを令和5年度より試行的に導入する。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-2-1：「教育・福祉インターンシップ」シラバス
- ・資料3-2-2：「教職実践研究A」シラバス
- ・資料3-2-3：「ボランティア体験I」シラバス
- ・資料3-2-4：見学先中学校への依頼メール
- ・資料3-2-5：「教科教育法（英語）Ⅲ」シラバス

Ⅲ. 総合評価

本学における教職課程において評価できる点を以下に示す。

第一に、各学部、大学院ともに DP 及び CP を踏まえて、保育・教職支援課・教務課と保育・教職課程委員が協働して適切に教職課程の運営を行っている。

第二に、各学部、大学院ともに AP を明確に示し、入学時のオリエンテーションでの説明等、丁寧な指導を行っている。学生の教職に対する意欲や適性については、個別に面談を実施し、一人一人に対してきめ細かな指導を行っている。

第三に、各学部、大学院ともに、それぞれの専門性を生かしたカリキュラムの編成・実施を行っている。

第四に、地域との連携においては、早期に地域の学校園での体験活動を実施し、継続して多くの学生が学校支援ボランティアへ参加して、学びの場を地域にも広げている。

第五に、保育・教職支援課では、教員採用試験対策のための願書指導、面談、進路相談等、手厚い教職サポートを行っている。

第六に、卒業生による教職の魅力や学校現場について語る会や教員採用試験を受験した学生による体験報告会など、学生同士の縦のつながりが充実している。

他方、本学の教職課程において課題となる点を以下に示す。

第一に、教職課程の質的向上のための授業評価アンケートの分析や FD、SD 研修会の実施については十分とは言えず、今後は協働して実施する必要がある。

第二に、ICT 活用能力については、教員養成段階でもさらに充実する必要がある。学生への指導を充実させるために、教育課程独自の FD 研修会などで教員が力量を高め、一定の指導水準を担保できるようにしたい。

第三に、卒業後、教育現場で困難を抱えたり、うまく適応できなかつたりする事例も見られる。そのため、卒業後も相談等に応じ、大学が支援の場であることを学生に伝え、自信をもって教育実践ができるように支援する必要がある。

IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

【令和3年11月】

- ・学長が全職員対象のFD研修会において「教職課程自己点検評価」の趣旨等について説明し、本学の実施体制として保育・教職課程委員会が主体となり、同委員長を中心に、教職課程を有する学部学科と関係する全教員が協力して自己点検・評価を実施すること、事務的支援は保育・教職支援課及び教務課が協力して行うことなどの周知を図った。

【令和4年2月】

- ・保育・教職課程委員会の委員長・副委員長及び課程専任が統括者として骨子を作成した。

【同年3月】

- ・保育・教職課程委員会において委員による合意を得た。

【同年5月】

- ・全学的な内部質保証を推進する組織である「自己点検・評価・改善委員会」の中に位置付けた。
- ・各学科会議，教授会等で説明し，各担当者を決めて，自己点検・評価を開始した。

【同年8月～12月】

- ・各担当者が統括者に提出した報告をまとめ，報告書を作成した。

【令和5年1～2月】

- ・教職課程委員，保育・教職支援課，教務課が報告書の点検を行った。

【同年3月】

- ・保育・教職課程委員会で審議し，承認を得た。
- ・自己点検・評価・改善委員会で審議し，承認を得た。
- ・大学教育研究評議会で審議し，承認を得た。
- ・一般社団法人全国私立大学教職課程協会に報告書を提出した。
- ・大学HPへ公表した。

V 現況基礎データ一覧

令和4年5月1日現在

法人名 学校法人 就実学園					
大学・学部名 就実大学 人文科学部，教育学部 就実大学大学院					
学科・コース名（必要な場合） 就実大学 人文科学部：表現文化学科，実践英語学科，総合歴史学科 就実大学 教育学部：初等教育学科，教育心理学科 就実大学大学院：人文科学研究科，教育学研究科					
1 卒業者数，教員免許状取得者数，教員就職者数等					(名)
①	昨年度卒業者数				436
②	①のうち，就職者数 (企業，公務員等を含む)				389
③	①のうち，教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)				150
④	②のうち，教職に就いた者の数 (正規採用＋臨時的任用の合計数)				87
	④のうち，正規採用者数				48
	④のうち，臨時的任用者数				39
2 教員組織					(名)
	教授	准教授	講師	助教	その他(兼任，兼担，非常勤)
教員数	20	23	10	0	67
相談員・支援員など専門職員数					